奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和八年九月度　入賞句一覧

投句数　千六百　句

髙木　佐知子　選

特選

あさがおのつるのびのびとくるくると　　大垣市　　高橋　　栞（小三）

春先から育てたあさがおは、少しずつつるを伸ばし、夏になると赤や紫のきれいな花を咲かせます。天に向かって行く方向をのびのびと探すつる、また、自由自在にくるくると支柱に巻きつきながら伸びるつる。「のびのびとくるくると」という中七、下五のリズムが、元気よく生長するあさがおと重なります。この俳句は、作者がつるに注目しているところがおもしろいですね。新たな発見をリズミカルに表現した勢いのある一句です。

そろそろかどくしょのあきにほんのやま　　大垣市　　川合　是徹（小四）

読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋というように、秋には楽しいことがたくさんあります。「そろそろか」という上五から、作者が本を読むことが好きなことが伝わってきます。図書館にあるたくさんの本の中から、読んでみたい本を見つけるのは楽しみでしょう。もしかしたら、読みたい本がすでに決まっているのかもしれませんね。「ほんのやま」に込められたわくわくする気持ちが、読み手を読書に誘っているようです。夢が広がる一句です。

なつやすみらじおたいそうたのしみだ　　大垣市　　こんどう　さわ（小二）

夏休みといえば、朝六時半から始まるラジオ体操です。眠い目をこすりながらカードをもって近くの公園や広場に行き、ラジオから流れる音楽や号令に合わせて体操をします。小さな子どももいればお年寄りもいます。お父さんやお母さんも知っている体操です。「たのしみだ」という言葉には、作者の胸いっぱいに広がる願いや喜びがあふれているようです。みんなが笑顔になる一句です。

秀逸

秋夕焼チャイムがわりのさようなら　　大垣市　　木村　心音（小五）

汗光り机に向かう猫背かな　　大垣市　　伊藤　陽咲（中三）

耳すます色なき風の声がする　　大垣市　　佐伯　吏音奈（中三）

育つ夏進路へ挑む覚悟せり　　大垣市　　阪口　真伍（中三）

ふらふうぷあひるあるきでくぐったよ　　大垣市　　さわだ　とうま（小一）

大切にそだてたピーマンあじわった　　大垣市　　よしだ　じゅんご（小二）

ことしこそつかまえたいなカブトムシ　　大垣市　　安永　遙真（小三）

夕はんにレタスの水きり家タコス　　大垣市　　長谷川　陽人（小五）

グランドで夕焼けの中素振りする　　大垣市　　伊藤　駿作（小五）

食べ歩きアイスがポタリ夏の昼　　大垣市　　中村　朱里（小五）

入選

かまきりがげんかん前でとおせんぼ	大垣市	鈴木　咲彩（小三）
おとうさんかたぐるましてみるはなび	大垣市	ひびの　大と（小三）
帰り道夕日を浴びて秋を待つ	大垣市	戸川　瑠花（中三）
二度寝する課題におわれる夏休み	大垣市	河野　優空（中三）
迷い込む蝿と格闘自習室	大垣市	戸谷　太亮（中三）
燕の子空へ羽ばたく夢描く	大垣市	山田　翔也（中三）
清流を弾いて泳ぐ岩魚かな	大垣市	洞口　陽（中三）
宿題を後回しにして蝉の声	大垣市	津坂　愛菜（中三）
川遊び浮いて見上げる夏の空	大垣市	川合　杏奈（中三）
母さんとナスのしゅうかくハッピーだ	大垣市	たかひら　さおり（小二）
どんぐりがあたまにのってもうあきだ	大垣市	おおはし　ゆきな（小二）
なつやすみイグアナを手でさわれたよ	大垣市	いしづか　こまり（小二）
なつまつりどんどんならすたいこだよ	大垣市	森川　はる（小三）
ヒマワリがきれいにさいた夏がきた	大垣市	栗田　朋奈（小三）
かぶと虫おち葉の下におちてるか	大垣市	野村　梨依愛（小四）
りんりんといいねいろだねすずむしだ	大垣市	髙澤　柊惺（小四）
むしさがしかれはをどかしコオロギだ	大垣市	しち　そうすけ（小四）
舟下りゆらゆらゆれる葉もゆれる	大垣市	星野　みり（小五）
コスモスといっしょに写るわたしたち	大垣市	宮脇　歩那（小六）
二度ねするけどおこられん夏休み	大垣市	早野　雅都（小六）

選者吟

鈴虫の羽こすり合ふ澄音かな　　佐知子



小中学生の部